SPECIAL POINTS OF **INTEREST:**

第12回国際ヤギ会議 in トルコアンタルヤ The 18th Japan **National Goat** Summit in ASO

目次~INSIDE THIS ISSUE:

第12回国際ヤギ 1-3 会議 in アンタル

The 18th Japan 4-6 **National Goat** Summit in ASO

7 お知らせ Announcement

Welcome to IGA IGA入会のご案内

国際ヤギ協会日本支部

IGA Japan 国際ヤギ協会日本支部

ISSUE 8

DECEMBER 2016



第12回国際ヤギ会議 in トルコアンタルヤ

2016年9月25日から 30日まで、トルコのリ ゾート地アンタルヤで4 年に一度の国際ヤギ会 議が開催されました。 今回のテーマは、「ヤ ギを利用した耕畜(耕 地・森林・草地)連携 生産システムの社会と 環境への貢献:地球規 模の変化に対峙するヤ ギのバリューチェーンを 築く様々な戦略」と題 し、学術シンポジウ ム、研究発表、事例検 証、パネルディスカッ ション、視察旅行など が行われました。

今年トルコでは、6月

のイスタンブール空港 テロ事件や各地での爆 発事件など、情勢不安 がたびたび報告された ために渡航を見合わせ た人が多く、世界37カ 国から325名の参加者 という公式発表でし た。学術プログラムで は、口頭による学術発 表が165題、ポスター 発表が154題との紹介 がありましたが、ポス ター発表の会場には空 欄のボードが目立ち、 参加登録をした後にも 参加を取りやめた人が 多くいたのではないか

た。しかしながら、参 加者が少なかった分、 参加者同士の密接な交 流が深まり、全体とし ては大きな成功だった と感じています。

また、イルファン大会 会長とナザン議長をは じめとする、トルコの 人々の細やかな気遣い と温かいもてなしに、 海外からの参加者も アットホームでくつろ いだ時間を過ごしまし た。ここにICG2016 無事開催を報告すると ともに、トルコ情勢の 安定が早く進むことを 願います。







会場となったKervansaray Laraホテルは、建物の老朽化などで不評だった反面、オールインクルーシブ(飲食代込み)のホテルで、朝6時の朝食から夜中過ぎまで、多部な料理とのアルコールを含む飲み物がいつでも提供されており、食事中やお茶の合間にも参加者との交流を深めることができ、非常に便利だと好評でした。

国際ヤギ会議は、9月26日朝の 開会式と招待講演「FAO/OIE による小反芻獣疫制御と撲滅」 から始まりました。続く学術講 演は、1)ヤギの疾病と健康、 2)遺伝育種、3)繁殖技術、 4) 生産システム、5) 人とヤ ギ生産物と価値連鎖、6)栄養 と飼養システム、7)アンゴラ ヤギ生産とその将来、8)ヤギ 乳と乳加工、9)従来システム と有機システムによる肉、毛、 その他食用外生産物利用、 10) 将来を見据えたヤギ生産 の機械化と新手法の10テーマ について、3つの会場で28日ま で3日間に渡って開催されまし た。

世界中でヤギ生産の重要問題として注目されている小反芻獣疫については、26日午後にシンポジウムが開催され、トルコ、グルジア、ケニアなど各国の現状報告に続きき、別者からの現状報告に続きるが行われました。小反領域、アフリカやアジア、中野に養延するウイルス性の伝染で、トルコでも発生率が高くに要になっています。FAO (国際連合食糧農業機関)では、OIE (国際獣疫事務局)では、



この国際伝染病を2030年までに世界から撲滅する目標を掲げています。このシンポジウムでは、FAOからも専門家が招かれていました。

また、この大会機関中に、国 際ヤギ協会の役員会が4回に 渡って開催されました。そこ では、2016から2020年の任 期を務めるIGAの新会長(Dr. Beth Miller) と14名の新役 員が選出されたとともに、 2020年の国際ヤギ会議開催 立候補国(インド、ネパー ル、ハンガリー)からの招致 プレゼンテーションが発表さ れ、選考会が行われました。 また、生産者からIGAに寄せ られる質問が多いことを受 け、コンサルタントグループ を協会内に設置する案や、こ れから4年間のIGAの方向 性、IGA終身会員制の導入、 IGAが発行するSmall Ruminant Research (学術 誌) の基本方針改訂について の検討が行われました。

IGA新役員(2016-2020)

Dr. Dilip Bhandari, (USA)

Dr. Noemi C. Navarro (Spain)

Dr. Harve Hoste (France)

Dr. Nazan Koluman (Turkey)

Dr. Jean Marie Luginbuhl (USA)

Dr. Paula Menzies (Canada)

Dr. Beth Miller (USA)

Dr. Tilahun Sahlu (USA)

Dr. Lucia Sepe (Italy)

Dr. Juan F. Torres-Acosta (Mexico)

Dr. Carina Visser (South Africa)

Dr. Yingjie Zhang (China)

Dr. Sándor Kukovics (Hungary)

Dr. Yoko Tsukahara (Japan)

懇親会のプログラムも多くのプログラムも多くである。初日のインテルパーテルのサーダをといる。カクテルパーのサーダをといる。シーズンで4年ぶりのメージをといる。シーズンで4年ぶりのメージをといる。シーズンで4年ぶりのメージをはいる。シーズで4年がよりでも多いでは4年がよりに4年がよりでは4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がよりを4年がより

最終日の視察旅行は、アンタ ルヤ市内にある2件のヤギ農 家を訪問した後、放牧民の様 子を車窓から眺めました。は じめに訪問したのは、ホテル から2時間ほど離れたElmali 地区のApple Mansion Goat Farmいう集約農家。ここで は、地方政府からの援助を受 けて、ザーネン種を500頭程 度飼養し、乳生産、アイスク リーム、チーズなどの生産を 行なっています。乳生産量は 平均で2.5 - 3 kg/日とのこと でした。搾乳施設見学後にバ ニラ、チョコレート、ゴマ味 のアイスクリームと2種類の フレッシュチーズが参加者へ



ふるまわれました。野外調理場 で作られた、トルコの伝統的な 昼食を取った後、トルコや地中 海地域ではより一般的な準遊牧 のヤギ生産現場を視察しまし た。ここでは、200頭程度の在 来種(Honamli Kecisi)が荒 地に放牧されていました。在来 種とはいえ、とても背の高いヤ ギ達で、ベルをつけたリーダー ヤギに群れがついて行ったり、 いつもと違うことが起こるとヤ ギ達が一斉に畜舎に逃げ込む様 子などを観察しました。このシ ステムでは、簡易な手作りの畜 舎がある以外は、全く自然の環 境下でヤギが飼育、搾乳されて



いて、6ヶ月ごと移動するとのことでした。ホテルへの帰り道、広大な土地にヤギを放している遊牧民の姿が車窓から見えました。

2020年は、ハンガリーの古都 エゲルでの開催です。日本から 多くの方々の参加をお待ちして います。



アイスクリームを楽しむラングストン大 学アメリカヤギ研究所の研究者たち



The 18th Japan National Goat Summit in Aso

第18回 全国山羊サミット in 阿蘇





The 18th Japan National Summit, entitled "Ecological Life and Agriculture with Goats," was held on November 12 - 13, 2016 in Aso, Kumamoto. The Aso area had severely damaged by the 2016 Kumamoto Earthquake with a magnitude 6.2 foreshock on April 14 followed by a magnitude 7.0 main-shock on April 15, which killed more than 50 people and evacuated 44,000. The organizers faced difficulties in implementation of the Summit this year; however, they decided to make the Summit as a symbol of recovery. With their strong tie and efforts, the Summit was successfully conducted. Despite of harsh accessibility due to reconstructions and damaged roads, the Summit welcomed more than 280 participants from all over the country. Keynote lectures were made by Ayumi Kotani, Aglicultural Journalist, who spoke

"Diversity and Complementarity of Goats" and Masaharu Manda, Professor Emeritus at the Kagoshima University, who spoke " Goats that support livelihood." The 4 invited lectures included 1) "Things that Goat Keeper should Know" by Nobuo Kato, Director, Nagano Station, the National Livestock Breeding Center, 2) "Supporting Systems that Enhance Goat Production" by Akio Imai, the President of National Goat Network, Japan, 3) "Threads and Measures to Control Internal Parasitism in the U.S.A" by Yoko Tsukahara, Visiting Scholar, Langston University, USA, and 4) "Basics of Livestock Sanitation and Disease Control" by Hozumi Tanaka, DVM. In addition, there were 7 case studies made by producers, students, and young scientists.

After the plenary session, 6 section meetings were held in areas of 1) Life with Goats, 2) Milk and Meat Processing, 3) Goat Production, 4) Goats in Education/Animal Therapy Using Goats, 5) Weed Control Using Goats, and 6) Introduction to Goat Management. Presenters were divided into each meeting and participants selected a meeting according to their interests. In each session, there were more questions and answers as well as deeper discussions.



During the Summit, a goat picture contest was held and every single participant voted best 3 pictures among 100 pictures. The best picture got the prize was " # 9. Pregnancy Exercise of Saanen Does."





A social program in the evening was a buffet style with hot-pot, sushi, and local vegetables. Interactions, discussions, and meeting with new people lasted until midnight.

The programs in the following morning was practices in hoof trimming and artificial insemination using simple equipment, which was lead by technicians from the Nagano Station of the National Livestock Breeding Center.





Exhibits included goat products, grazing equipments, and electric fences, as well as does and kids from the Asagiri-Seiryu project.

The Asagiri-Seiryu project has been promoting goat production and utilization in Asagiri Town, Kumamoto. They sell goat milk, promote goat meat consumption, and utilize goat for weed control, animal therapy, and juvenile education. You can visit their website at asagiri-seiryu.com for more details. Yuko Takahashi, IMA Cheese Factory, sold his "Chaus-Dake Chevre." He is a cheese producer at Ima Farm, Nasu Kogen, Tochigi. He had learned goat cheese making in Germany in 2011 and is now producing high quality cheeses in his factory with his wife Yukari who is also an excellent cheese producer.



Yuko has been honored as a Guild International of Fromage in November 2016, following his wife Yukari who received it in April, 2016.



Yagi Sakura Farm (Goat and Cherry Farm) exhibited and sold the "Goat Perfect Soap" and "Goat Natural Cream (moisture cream)." The farm is from the Aso area, owned by Kensho Futagoishi.





Other exhibitors are the Agricultural Technology Center, Shimane, which showed grazing equipment, Surge Miyawaki K.K., a electric fence dealer in Tokyo and others. Participants enjoyed their products and to interact with the Exhibitors.



お知らせ

大会情報

- ☆第13回国際ヤギ会議は、2020年9月にハンガリー、歴史遺産と温泉、赤ワインで有名な古都エゲルでの開催予定です。
- ☆乳用ヤギ・ヒツジ会議が「飼養と繁殖」というテーマで2017年2月21–22日にイギリスブリストルで開催されます。
- ☆世界ヤギの日が2017年5月にイランで開催されます。
- ☆第9回国際ヒツジ獣医会議がイギリスハロゲートにて2017年5月22-26日に開催されます。 これらの詳しい情報は、www.iga-goatworld.comをご覧ください。

携帯アプリ"GoatBook"のご紹介

最近では、家畜を管理するのに携帯アプリが活躍しています。ヤギの管理が簡単にできるのこのアプリでは、個体ごとの繁殖(交配日から出産日の計算、メスの繁殖成績管理、交配履歴)やワクチン接種、成長などを簡単な操作で手元のスマートフォンに記録することができるアプリです。最初の6ヶ月は無料、以降年間\$15です。ヤギに記録をどうしたらいいのかお困りの方は、一度試してみてはいかがですか?



Announcement

The 18th JSGS Meeting

The 18th Japanese Society of Goat Science (JSGS) Meeting will take place on March 27, 2017 at the Faculty of Intercultural Studies, Kobe University, Kobe, Japan. Registration for presenters ends February 28, 2017; please inform your 1) name, 2) contact address, 3) tile of your presentation, 4) names of coauthors, and 5) affiliation. Abstracts must be submitted by March 13, 2017. Abstract limits to 2 pages in A4 size paper, may include a table and/or figure. Please prepare your abstract in a text file or Microsoft Word. Both registration and abstracts must be sent to the JSGS office at yoshiha@meijo-u.ac.jp by the due dates. Registration fee is ¥500 flat and will be collected at the door. Presenters may use PowerPoint slides and/or handout materials for their presentation. A social will be held after the meeting (18:00 - 20:00) and the request for participation closes on March 20, 2017.

National Goat Summit in 2017

The 19th National Goat Summit will be held in Gifu prefecture in fall 2017. More information will be available at the Japan Goat Network website http://japangoat.web.fc2.com/index.html

The only global organization on goats and small livestock

IGA入会のご案内

国際ヤギ協会 (IGA) では、皆様の入会を随時受け付けています。IGAのホームページ hp://www.iga-goatworld.com/より入会申込書(Membership Application)をダウンロードし、郵送、Faxまたはメールでお申し込みください。

年会費は、\$50.00(オンラインジャーナルのみ)で、申込み受付日(支払い完了日)から 1年間有効です。学術誌Small Ruminant Researchの印刷版をご希望の場合は、年会費 \$150.00です。会費は、クレジットカード(ビザまたはマスターカー ド)、小切手、電子送 金、Paypalでの支払いを受け付けています。

会員特典: オンラインジャーナル"Small Ruminant Research"とニュースレターへのオンラインアクセス(すべて英語) 詳細は、hp://www.iga-goatworld.com/をご覧ください。

IGA本部 International Goat Association

12709 Grassy Dr. Little Rock, Arkansas 72210 http://www.iga-goatworld.com/

Email: admin@iga-goatworld.com, Tel & Fax: +1-501-251-9391

IGA日本支部とニュースレターについて

国際ヤギ協会(IGA)日本支部は、IGAの活動を振興するとともに、海外のヤギ情報を日本へ、日本のヤギ情報を海外へ発信することを趣旨として、全国山羊ネットワークおよびその研究部会である日本山羊研究会と連携してニュースレターを発行し、IGAのウェブサイトへ掲載しています。また、日本の全国山羊ネットワークの会員の皆様には「ヤギの友」を通じて、世界のIGA情報をお届けしたいと考えています。そのためこのニュースレターでは日本語と英語が混在しています。なお、IGA日本支部では、皆さんからのご質問やご意見、海外へ発信したい情報などを随時受け付けていますので、以下のアドレスへご連絡ください。

メールアドレス: igajapancr@gmail.com IGA日本代表 塚原洋子